

地質情報管理士資格検定試験に合格して

基礎地盤コンサルタンツ株式会社 東北支社 根岸 拓真



私は令和3年7月に地質情報管理士を受験し、幸運にも合格することが出来ました。僥越ながら、この場をお借りして合格体験記を書かせて頂きます。

受験の動機

建設コンサルタント業や地質調査業は「情報」と切っても切り離せない関係であると認識しています。自分自身も日々の実務で多数の情報やデータを扱っていますが、その中で本資格のテーマの1つにもなっている「データの二次利用」に関する知識がほぼ皆無であると常々感じていました。このままでは、情報を取り扱う技術者として、知っておくべき知識を知らないまま進んでしまうという危機感・焦燥感が芽生え、受験を決意しました。

試験対策

本資格試験は、第一部（四肢択一式）、第二部（四肢択一式）、第三部（論述式）の三部構成となっています。合格基準は各部で6割以上取る必要があります。仮に第一部が6割以上得点できたとしても、第二部や第三部で6割を下回った場合、不合格となってしまいます。

私は、試験日7月の2か月前である5月から短期間で集中的に対策を行いました。5月から6月までの1か月間は、過去の試験対策テキストを読み、試験で問われる内容やトピックスの把握を行ないました。6月から7月までの1か月間は、過去問の演習や情報管理に関する最新のトピックスを調べるなどを行ないました。

第一部、第二部（四肢択一式）の対策については、過去5年分の過去問を繰り返し演習しました。恐らく10回程度は繰り返したと思います。繰り返し演習することで、自分の得意分野や不得意な分野が見えてきました。不得意な分野は何度解いてもやはり誤答してしまうことが分かったので、持ち歩きできるサイズのノートを準備し、頻繁に誤答してしまう問題と正答を書き出して、隙間時間（昼

休憩や移動時間）を利用してノートを見るようにしました。

第三部（論述式）の対策については、過去問を参考に、自分の答案を練り上げることが主でした。加えて、電子納品要領やネットにて地質情報に関する最近のコラムや制度の改定の有無について確認しました。過去の問題では、「あなたは地質情報管理士としてどのように対応するか」といった実務者の目線に立って解答するような問題も出題されていたので、地質情報管理士に“なりきって”、正しい回答ができるよう、論文対策を行ないました。

私の場合、“覚える”というより、問題そのものに“慣れる”ことを意識して取り組みました。

試験日を迎えて

試験日当日は緊張よりも、早く試験前のそわそわした感覚から解放されたいという思いが強かったことを覚えています。

第一部、第二部については、過去問と類似した問題が多数出題されましたので、対策の効果もあり、やや自信はありました。一方で、第三部については、手ごたえは正直あまり無く、納得できる回答が出来なかったことを覚えています。

地質情報管理士となって

資格登録証が届いてから、数か月が経ちますが、未だに実感が湧いていません。しかし、受験前と比べて、試験対策の中で学んだ、地質情報の二次利用に際する注意点やエラーを未然に防ぐための措置について意識して業務に取り組むようになったと感じます。

地質情報管理士は、「電子納品運用ガイドライン【地質・土質調査編】」において電子納品に関する有資格者として扱われています。これからは、地質情報管理士として、資格の名に恥じないように、邁進して参りたいと思います。